

研究ノート

群馬パース学園短期大学看護学科卒業生の修士号取得に関する研究

城生弘美¹⁾・馬醫世志子¹⁾・佐藤晶子¹⁾
伊藤まゆみ¹⁾・大野絢子¹⁾

Study on earning a master's degree

— A case of graduates of Gumma Paz Gakuen College School of Nursing —

Hiromi JONO¹⁾, Yoshiko BAI¹⁾, Teruko SATOH¹⁾
Mayumi ITO¹⁾, Ayako OHNO¹⁾

キーワード：短期大学、卒業生、修士号、大学院進学、看護師

I. はじめに

看護系大学は急速に増え2003年に100大学以上を数え、2007年度には156大学、2008年度には166大学を数えるほどになった¹⁾。また、2007年に看護系大学院修士課程は102大学院、看護系大学院博士課程は43大学院となり、その数は着実に増加し、看護職の専門教育が充実しつつある。

このような状況の中、短期大学は減り4年制大学に移行しているケースが増え、短期大学卒業生のキャリアアップを図ることは重要課題と言える。本学においても短期大学看護学科卒業生が総勢562名となり、それぞれの職場等で研鑽を積んでいるところである。第一回生は卒業後8年目を迎え、中堅看護師として重要な職務を遂行している。また卒業生一人ひとりが自分のキャリアアップを考え始める時期であると考えられる。

他大学での学部卒業生の大学院進学希望調査²⁾を始め、看護師^{3)~8)}、看護管理者(病院・保健所)^{9)~11)}など実務者に向けての大学院進学希望調査や、看護教員に対する大学院進学希望調査もある¹²⁾。しかし、短期大学卒業生に焦点化した大学院進学希望調査はほとんど見当たらない。

そこで、群馬パース学園短期大学看護学科卒業生562名を対象に、短期大学卒業生が希望する大学院進学希

望(修士課程)と進学を可能にするための条件についての実態を把握することとする。

II. 研究目的

群馬パース学園短期大学看護学科卒業生562名を対象に、卒業生が希望する修士号取得方法と進学のための条件についての実態を明らかにすることを目的とする。

短期大学卒業生の大学院(修士課程)進学に関する要望を把握することにより、本学短期大学看護学科卒業生のキャリアアップに寄与するための具体的方策を検討する基礎資料としたい。

III. 研究方法

1. 対象者

群馬パース学園短期大学看護学科卒業生の第一回生から第七回生まで、計562名とした。

2. 調査方法

1) 期間：2007年11月2日～11月30日

2) 方法：卒業生名簿に記載されている住所宛に、本調査用紙とともに本研究の趣旨と研究協力依頼の説明文を同封し郵送した郵送

1) 群馬パース大学保健科学部看護学科

法

3) 質問内容:

- ①本大学大学院が設置された場合の進学希望の有無について
- ②大学院進学希望理由について
- ③入学時期の希望について
- ④大学院講義開講希望時間帯について
- ⑤通学時間と交通手段について
- ⑥大学院修了後の進路希望について
- ⑦大学院進学にあたり懸念されることとその理由について
- ⑧基本的属性(卒業年度、性別、年齢、配偶者の有無、勤務年数、学士号取得の有無と取得方法、修士号取得の有無と取得方法)について

4) 倫理的配慮

大学に保管してある卒業生名簿使用について、大学倫理委員会の審査を経たことを研究協力依頼文書の中で明文化し、本調査に協力しないことで不利益はこうむらないことを併記した文書とした。また、記入後は同封した返信用封筒を使用してもらうこととした。調査用紙の返送をもって、調査協力に同意が得られたものとした。

IV. 結 果

1. 調査用紙回収について

調査配布数562のうち、回答の得られたものは92であった(回収率16.4%)。

2. 対象者の基本的属性について

1) 対象者の属性(表1)

回答者の平均年齢は25.0 (SD±3.56) 歳で、臨床経験年数は平均3.62 (SD±3.32) 年であった。性別については、男性8名(8.7%)、女性80名(87.0%)であった。

回答者のうち、学士号取得者は5名(5.4%)、未取得者は68名(73.9%)であった。5名の学士号の取得

方法は、他大学に編入し取得したものが2名、不足単位を放送大学で取得し学位授与機構を利用したものが1名であった。また、すでに修士号を取得しているものが1名いたが、取得方法の記載がなかった。

2) 対象者の年齢構成内訳と配偶者の有無(表2)

回答者の年齢構成は表2に示したとおり、ほとんどが20歳代であり、25歳以降の約2割に配偶者がいた。

3. 大学院進学希望について

大学院進学希望に関して尋ねたところ、もっとも多かったのは「関心はある」43名(46.7%)で、「できれば進学したい」が8名(8.7%)であった。また「進学しない」20名(21.7%)、「全く考えていない」21名(22.8%)であった。

以下「大学院進学希望者」とは「関心はある(43名)」と「できれば進学したい(8名)」に回答した者をいう。

4. 大学院進学希望理由について(表3)

大学院進学希望者に対し、その理由を尋ねたところ、

表1 対象者の属性 (n=92)

項目	実数 (%)	
年 齢	平均 25.0歳 (±SD3.56)	
臨床経験年数	平均 3.62年 (±SD3.32)	
性 別	男 性	8名 (8.7%)
	女 性	80名 (87.0%)
	無 回 答	4名 (4.3%)
配 偶 者	有	19名 (20.7%)
	無	53名 (57.6%)
	無 回 答	20名 (21.7%)
学 士 号	取 得 者	5名 (5.4%)
	未取得者	68名 (73.9%)
	無 回 答	19名 (20.7%)
修 士 号	取 得 者	1名 (1.1%)
	未取得者	58名 (63.0%)
	無 回 答	33名 (35.9%)

* 学士号取得者5名の取得方法:

学位授与機構を利用した者	1名
他大学編入をして取得した者	2名
取得方法不明の者	1名

* 修士号取得者1名の取得方法は不明

表2 対象者の年齢構成と配偶者の有無 (n=72)

年齢構成	実数 (%)	配偶者の有無	
		有	無
21歳~24歳	35名(48.6)	2名(2.8%)	33名(45.8%)
25歳~29歳	35名(48.6)	15名(20.8%)	20名(27.8%)
30歳代	1名(1.4)	1名(1.4%)	0名(0%)
40歳代	1名(1.4)	1名(1.4%)	0名(0%)

無回答 20名

最も多かったのは「自分の専門性を高めるため」32名(62.7%)、次に「自己実現するため」17名(33.3%)、「業務の質をあげるため」15名(29.4%)、「業務内容の充実を図るため」14名(27.5%)、「他職種との連携を図りやすくするため」8名(15.7%)、「職位をあげるため」7名(13.7%)、「臨床から研究機関に職場を変更したいため」5名(9.8%)の順であった。その他は1名で、その理由は「専門看護師の認定を受け、教育指導をしたい」であった。

5. 入学希望時期について

大学院進学希望者は入学希望時期として、「平成21年度～平成23年度」をあげるものが最も多く14名(15.2%)、「平成23年度～平成25年度」9名(9.8%)であった。その他に回答したものは18名(19.6%)であり、無回答8名であった。

6. 大学院の開講時間帯の希望について

大学院進学希望者の講義開講希望時間を複数回答としたところ、最も多かったのは土曜日午前中9:00～12:00が18名(35.3%)、土曜日午後13:00～16:00が15名(29.4%)、次いで平日夜19:00～22:00が14名(27.5%)、平日午前9:00～12:00と土曜日夜19:00～22:00が13名(25.5%)、土曜日夕方16:00～19:00が11名(21.6%)、平日午後13:00～16:00が7名(13.7%)、平日夕方16:00～19:00が5名(9.8%)であった。

7. 通学時間の許容範囲と交通手段について

大学院進学希望者の通学時間許容範囲で最も多かったのは、「30分から一時間以内」20名(21.7%)、次いで「一時間から一時間半以内」12名(13.0%)、「一時間半以上」9名(9.8%)、「30分以内」5名(5.4%)であり、無回答者が5名であった。

交通手段について複数回答としたところ、最も多かったのは「自家用車」31名(60.8%)、「電車」24名(47.1%)、「徒歩」7名(13.7%)、「自転車・バイク」と「バス」が各5名(9.8%)であった。

8. 大学院修了後の進路希望について(表4)

大学院進学希望者に対し、大学院を修了後どのような進路を考えているかについて、尋ねたところ、最も多かったのは「病院へ就職」26名(51.0%)、「研究・教育機関へ就職」19名(37.3%)、「博士課程進学」1

表3 大学院(修士課程)進学希望理由
(複数回答可)(n=51)

項目	実数(%)
自分の専門性を高めるため	32名(62.7)
自己実現をするため	17名(33.3)
業務の質をあげるため	15名(29.4)
業務内容の充実を図るため	14名(27.5)
他職種との連携を図りやすくするため	8名(15.7)
職位を上げるため	7名(13.7)
臨床から研究機関に職場を変更したいため	5名(9.8)
その他	1名(2.0)

* その他の記載内容:

- ・専門看護師の認定を受け、教育指導をしていきたい

表4 大学院(修士課程)修了後の進路希望 (n=51)

項目	実数(%)
病院への就職	26名(51.0)
研究教育機関への就職	19名(37.3)
博士課程への進学	1名(2.0)
その他	3名(5.9)
無回答	2名(3.9)
計	51名(100)

* その他の記載内容:

- ・地域の保健・医療・福祉の分野で活躍したい
- ・未定2名

表5 大学院(修士課程)進学への懸念事項・希望しない理由(複数回答可)(n=41)

項目	実数(%)
経済的な困難	33名(80.5)
時間の捻出の困難さ	22名(53.7)
進学の必要性を感じない	19名(46.3)
家庭や私生活との両立の困難さ	17名(41.5)
子育てとの両立の困難さ	12名(29.3)
自分の目指す領域の開講の有無	9名(22.0)
その他	8名(19.5)

* その他の記載内容:

- ・遠方のため、通えない
- ・年齢的な問題
- ・専門性を高めることは魅力的だが、大学院に進学したいほど極めたい分野が見つからない
- ・今の仕事が好き、もう少し続けたい
- ・短大卒業により、単位不足のため
- ・他分野の進学志望
- ・看護の道から離れているため、看護系大学院には進学しない

名(2.0%)、その他3名、不明が2名であった。その他の記載内容は未定が2名、地域の保健・医療・福祉分野で活躍したいが1名であった。

9. 大学院進学にあたり懸念されることあるいは進学希望をしない理由について(表5)

大学院進学について「進学しない」20名と「全く考

えていない」21名に対し、進学にあたり心配なことあるいは進学希望をしない理由について尋ねたところ、最も多かったのは「経済的な困難さ」33名(80.5%)、次いで「時間の捻出が難しいこと」22名(53.7%)、「進学の必要性を感じない」19名(46.3%)、「家庭や私生活との両立が難しい」17名(41.5%)、「子育てとの両立の困難さ」12名(29.3%)、「自分の目指す領域の開講の有無による」9名(22.0%)、その他7名であった。

その他に回答した者の記載事項は、遠方により通えない、年齢的な問題、大学院に進学したいほど極めた分野がみつからない、今の仕事が好きなので続けたい、短大卒業のため単位不足、他分野の進学希望、看護の道から離れているため、等であった。

V. 考 察

今回の調査の回収率は16.4%と低かったが、短期大学が大学に移行している中、短期大学卒業生のキャリアアップに関する実態を明らかにする必要があると考える。

本調査の対象者は平均年齢が25.0歳、経験年数が3.62年であり、専門職者として自立し始めた若い年代であると言える。同時に結婚・出産という年齢にも差し掛かかっていることが示された。

学士号を既に取得しているものが5名、修士号取得者が1名いたことは、個人的な努力によりキャリアアップを目指した状況が伺われる。

大学院進学希望として「できれば進学したい」「関心がある」を合わせると回答者の半数以上が、進学を視野に入れ関心をもっていることがわかる。その一方で「全く考えていない」や「進学しない」と断言している回答者もいることがわかった。大学院進学希望者の進学理由は、「自分の専門性を高める(32名、62.7%)」「自己実現をする(17名、33.3%)」「業務の質をあげる(15名、29.4%)」「業務内容の充実を図る(14名、27.5%)」等、専門性を高めることと現在の仕事をさらに充実させ、自分の仕事への充実感を満たしたいということを考えていることが示された。これは他の調査³⁾とも類似した進学希望理由であり、職業人としてのキャリアアップに対するニーズが高いと考えられる。

大学院進学希望者が希望する入学時期は、平成21年度からと考えているものが最も多く、進学の意味が積極的であることが示唆される。また開講時間帯として

は、圧倒的に土曜日開講を望むものが多く、仕事との両立をしながら大学院進学を考えていることが推測される。また、通学時間の許容範囲は一時間以内が最も多かったが、一時間半以上でも良いと回答するものも約1割いたことから、一時間半以内であれば、通学時間の長短は影響がないと考えられる。交通手段については、自家用車が最も多いが、公共交通機関を利用したいと考える者も多く、利便性のよいところに開講することを望んでいると示唆された。

大学院進学希望のない者に対し、進学にあたり懸念されることあるいは進学しない理由について尋ねたところ、最も多かったのは「経済的な問題33名(80.5%)」であり、次いで「時間の捻出の問題22名(53.7%)」「進学の必要性を感じない19名(46.3%)」「家庭や子育てとの両立の困難さ12名(29.3%)」であった。大学院進学を考える際に、経済的な問題が大きいこと、さらに仕事と家庭(子育て)との両立が必要な年代であることが示され、これらは坂本¹³⁾や近藤¹⁴⁾らの指摘と同じであり、働きながら学べる環境を整備した大学院教育を行うことが求められていることが推察される。また、短期大学卒業のため大学院進学には単位不足と捉えている者もいた。このことは、大学院進学に際しての入学資格の弾力化「学校教育法施行規則第155条第7項」に関する情報不足の状況であることが推察される。

大学院進学希望者が大学院修了後の進路についてどのように考えているかに関しては、病院で働くあるいは研究・教育機関で働くと考えているものが多かった。平井⁹⁾や真覚¹¹⁾、小松¹⁵⁾らの調査によると、病院施設・保健所・その他の施設において大学院修了者の雇用は望まれているところであり、雇用する側は大学院修了者に対する雇用ニーズは高い傾向にあると言える。

VI. お わ り に

短期大学卒業生の中で大学院進学を希望する者に対しては、大学院入学資格の弾力化により「大学を卒業したと同等以上の学力が認められる者」(学校教育法施行規則第155条第7項)が適用されていることを広報するとともに、仕事や家庭(子育て)との両立が可能な講義演習開講時期や時間の柔軟性と経済的支援等の体制作りが強く求められていることがわかった。

謝 辞

調査研究にご協力いただいた群馬パース学園短期大学卒業生の皆様に深く感謝致します。

尚、本研究は平成19年度群馬パース大学特別研究費の助成を受けて行ったものです。

文 献

- 1) 日本看護協会出版会編：平成20年 看護関係統計資料集：2009：p.60
- 2) 曾田陽子・小松万喜子・川田智恵子：愛知県立看護大学の教育改革に関する調査(7) 本学学部生の本学大学院への進学ニーズ。愛知県立看護大学紀要 11：2005：pp.125-132.
- 3) 廣瀬幸美・松下由美子・石田貞代ほか：山梨県内看護職者の大学院（専門看護師教育課程）への進学に関するニーズ実態調査（その1） 看護職者への調査。山梨県立大学看護学部紀要 10：2008：pp. 83-92.
- 4) 賀沢弥貴・山田聡子・飯島佐知子ほか：愛知県立看護大学の教育改革に関する調査(4) 病院で働く看護師の本学大学院への進学ニーズ。愛知県立看護大学紀要 11：2005：pp.95-107.
- 5) 塩野悦子・山田紀代美・真覚 健ほか：宮城県における看護職の大学院進学ニーズ調査報告 病院看護職への調査。宮城大学看護学部紀要 8(1)：2005：pp.89-95.
- 6) 河野啓子・松木秀明・式守晴子ほか：看護職の大学院進学ニーズに関する調査。東海大学健康科学部紀要 9：2004：pp.57-63.
- 7) 澤井信江・野島良子・田中小百合ほか：潜在的大学院生としての看護職者の看護学・保健学系大学院に対するニーズ Delphi technique を用いた全国調査。日本看護研究学会雑誌 27(2)：2004：pp. 29-37.
- 8) 広瀬会里・本道和子・畑中美和子ほか：専門職の高等教育のあり方に関する研究－東京都看護職職員の学位取得に関する研究－。東京保健科学学会誌 4(4)：2002：pp.189-196.
- 9) 平井さよ子・賀沢弥貴・山田聡子ほか：愛知県立看護大学の教育改革に関する調査(5) 看護管理者の本学大学院修了者の雇用ニーズおよび管理者自身の進学ニーズ。愛知県立看護大学紀要 11：2005：pp.109-116.
- 10) 山田紀代美・真覚 健・塩野悦子ほか：宮城県における看護職の大学院進学ニーズ調査報告 行政保健師への調査。宮城大学看護学部紀要 8(1)：2005：pp.97-102.
- 11) 真覚 健・塩野悦子・山田紀代美ほか：宮城県における看護職の大学院進学ニーズ調査報告 病院の看護職管理者と保健所の看護職管理者への調査。宮城大学看護学部紀要 8(1)：2005：pp.103-107.
- 12) 曾田陽子・小松万喜子・川田智恵子：愛知県立看護大学の教育改革に関する調査(6) 看護教員の本学大学院への進学ニーズ。愛知県立看護大学紀要 11：2005：pp.117-123.
- 13) 阪本恵子：働きながら学ぶ学生の仕事と学業の両立の要因 看護系大学院修士課程に学ぶ学生の分析をとおして。人間と科学：県立広島大学保健福祉学部誌 6(1)：2006：pp.91-104.
- 14) 近藤由香・渋谷優子・坂井水生ほか：看護系大学院修士課程学生の入学志望動機・目的とその関連要因。日本看護研究学会雑誌 28(1)：2005：pp. 101-107.
- 15) 小松万喜子・平井さよ子・曾田陽子ほか：愛知県立看護大学の教育改革に関する調査(1) 本学大学院への進学及び修了者雇用に関するニーズの概括。愛知県立看護大学紀要 11：2005：pp.69-78.

